

《参考7》 連携用メタデータスキーマ

以下のメタデータ構造のmetadataPrefixを「ndlnk」とする。

名前空間定義

xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#"
 xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#"
 xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/"
 xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/"
 xmlns:dnd="http://ndl.go.jp/dnd/terms/"
 xmlns:foaf="http://xmlns.com/foaf/0.1/"
 xmlns:geo="http://www.w3.org/2003/01/geo/wgs84_pos#"
 xmlns:v="http://www.w3.org/2006/vcard/ns#"
 xmlns:cc="http://creativecommons.org/ns#"
 xmlns:ma="http://www.w3.org/ns/ma-ont#"
 xmlns:premis="http://multimedialab.elis.ugent.be/users/samcoppe/ontologies/Premis/premis.owl#"
 xmlns:dcat="http://www.w3.org/ns/dcat#"
 xmlns:ndlnk="http://kn.ndl.go.jp/terms/" ※名前空間ndlnkは、東日本大震災アーカイブで独自に定義する語彙の名前空間
 xmlns:jmp20="http://zgate.gsi.go.jp/ch/jmp/" ※国土地理院 JMP 2.0のスキーマで定義される名前空間

【凡例】

- ・連携MS： 震災関連デジタルアーカイブにて使用される東日本大震災アーカイブとの連携用メタデータスキーマ
- ・震災AMS： 「東日本大震災アーカイブ」にて使用される「震災標準メタデータスキーマ」

XML構造

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-01	1-1	xml											XML文書であることを宣言	<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
R-02	1-2	rdf:RDF											文書のルート要素	<rdf:RDF xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#" xmlns:rdfs="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#" xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/" xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:dnd="http://ndl.go.jp/dnd/terms/" xmlns:ndlnk="http://kn.ndl.go.jp/terms/" xmlns:foaf="http://xmlns.com/foaf/0.1/" xmlns:owl="http://www.w3.org/2002/07/owl#" xmlns:geo="http://www.w3.org/2003/01/geo/wgs84_pos#" xmlns:v="http://www.w3.org/2006/vcard/ns#" xmlns:cc="http://creativecommons.org/ns#" xmlns:exif="http://www.w3.org/2003/12/exif/ns#" xmlns:ma="http://www.w3.org/ns/ma-ont#" xmlns:premis="http://multimedialab.elis.ugent.be/users/samcoppe/ontologies/Premis/premis.owl#" xmlns:dcat="http://www.w3.org/ns/dcat#" > ※名前空間ndlnkは、NDL東日本大震災アーカイブで独自に定義する語彙の名前空間
R-03	1-3		ndlnk:MetaResource						1	1	参照値		リソースのメタ情報を表す要素 about属性には、実証PJ側ではメタデータ詳細画面に リンクするためのURL (URI)を格納する。	<ndlnk:MetaResource rdf:about="http://xxx.xxx.xxx/xxxxxxxx-xxxx-4xxx-yxxx- xxxxxxxxxxxx/" >
	1-4						rdf:about		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータの詳細画面URL	※メタデータの主語URIには、震災関連デジタルアーカイブのメ タデータ詳細画面のURLを使用する。
R-04	1-5			dcterms:created				データ作成日	0	1	文字列	dcterms:W3CDTF		<dcterms:created
	1-6						rdf:datatype		0	1	参照値		値制約	rdf:datatype="http://purl.org/dc/terms/W3CDTF">値 </dcterms:created> ※W3CDTF形式とする。 ※震災関連デジタルアーカイブにおいては、メタデータを作成し た日を格納する。
R-05	1-7			dcterms:modified				データ更新日	0	1	文字列	dcterms:W3CDTF		<dcterms:modified
	1-8						rdf:datatype		0	1	参照値		値制約	rdf:datatype="http://purl.org/dc/terms/W3CDTF">値 </dcterms:modified> ※W3CDTF形式とする。
R-06	1-9			dcterms:creator					0	-	構造化			※メタデータの作成者を構造化して記述する。
R-07	1-10				foaf:Agent									※メタデータの作成者 (URI) は、基本的にはWeb NDL Authoritiesの名称典拠URIを使用するが、他のURIを使用する こともできる。
	1-11								1	1	参照値			メタデータの作成者 (URI)
R-08	1-12					foaf:name			0	1	文字列	rdfs:Literal		リソースのメタデータの作成者 実証PJ側では可能であれば値を記述する。 NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータの作成者名

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-09	1-20			dcterms:conformsTo					1	1	参照値		スキーマURI(実証PJで一律に付与する)	※メタデータが準拠するメタデータスキーマの情報をURI参照により格納する。 例: <dcterms:conformsTo rdfs:label="みちのく震録伝メタデータスキーマ1.0版" rdf:resource="http://search.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/shinrokuden/terms/schema/2012/12/17"/>
	1-21						rdfs:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータが準拠する標準への参照	
	1-22						rdfs:label		1	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータが準拠する標準の名称	
R-10	2-1		ndlkn:Resource						1	1	参照値		リソースの主語 about属性は、ndlkn:MetaResourceの値URIの後ろに #entityを付与したURIとする コンテンツ表示画面にリンクするためのURL(URL)は foaf:pageに格納する	※主語として、情報資源の実体を示すURIを格納する。 <ndlkn:Resource rdf:about="http://search.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/shinrokuden/uuid/c0d5db30-5ef7-11e2-91ca-000c2923bf22#entity"> ※メタデータのURIの後ろに#entityを付けることで、情報資源そのもの(実体)を表すURIとする。
	2-2						rdf:about		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源そのもの(実体)のURI	
R-11	2-4			dc:title					1	-	構造化		NDLアーカイブ側の対応項目 タイトルに関する記述	※情報資源のタイトルを値と読みをセットで記述する。 ※読みを記述する場合は全角カタカナで記述し、可能であれば分ち書きを行う。
R-105	2-5				rdf:Description									
R-12	2-6					rdf:value		タイトル	1	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 タイトル	例: <dc:title> <rdf:Description>
R-13	2-7					dcndl:transcription		タイトルよみ	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 タイトルよみ	<rdf:value>2011 3・11・東日本大震災レポート：福島県建設業協会復旧・復興の記録：地域の建設業は危機管理産業 </rdf:value> <dcndl:transcription>2011 3・11・ヒガシニホン ダイシンサイレポート：フクシマケン ケンセツギョウ キョウカイフツキウ・フッコウノキロク：チイキノケンセツギョウワキキカンリサンギョウ</dcndl:transcription> </rdf:Description> </dc:title>
R-14	2-8					dcndl:alternative			0	-	構造化		NDLアーカイブ側の対応項目 別タイトルに関する記述	※日本語タイトルと併せて英語のタイトル等がある場合、ここに値を格納する。
R-15	2-9				rdf:Description									
R-16	2-10					rdf:value		別タイトル	1	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 別タイトル	
R-17	2-47						dcterms:creator		0	-	構造化		構造化(複数繰り返す) NDLアーカイブ側の対応項目 作成者に関する記述	※情報資源の作成者を構造化又はURIにより記述する。 ※読みを記述する場合は全角カタカナで記述し、可能であれば分ち書きを行う。Web NDL Authoritiesに該当データが存在する場合は、Web NDL Authoritiesにある読みをそのまま格納する。
R-18	2-48						foaf:Agent						構造化 about属性の作成者URIは可能であれば値を記述する。	【表現例1】 Web NDL Authorities(国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス)などでURIが提供されている場合 <dcterms:creator> <foaf:Agent rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/entity/00300723"> <foaf:name>宮城県図書館</foaf:name> <dcndl:transcription>ミヤギケン トシヨカン </dcndl:transcription> </foaf:Agent> </dcterms:creator>
	2-49						rdf:about		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 作成者 (URI)	
R-19	2-50						foaf:name	作成者	1	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 作成者	
R-20	2-51						dcndl:transcription	作成者よみ	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 作成者よみ	【表現例2】 Web NDL Authorities(国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス)でURIが提供されていない場合 <dcterms:creator> <foaf:Agent> <foaf:name>みちのく震録伝</foaf:name> <dcndl:transcription>ミチノク シンロクデン </dcndl:transcription> </foaf:Agent> </dcterms:creator>

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-21	2-54			dcterms:contributor					0	-	構造化		構造化 NDLアーカイブ側の対応項目 寄与者に関する記述	※情報資源の寄与者(寄贈者・提供者)を構造化又はURIにより記述する。 ※読みを記述する場合は全角カタカナで記述し、可能であれば分ち書きを行う。Web NDL Authoritiesに該当データが存在する場合は、Web NDL Authoritiesにある読みをそのまま格納する。
R-22	2-55				foaf:Agent								構造化 about属性の作成者URIは可能であれば値を記述する。	
	2-56						rdf:about		1	1	参照値			【表現例1】
R-23	2-57					foaf:name		提供者	1	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 寄与者	Web NDL Authorities(国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス)などでURIが提供されている場合
R-24	2-58					dcndl:transcription		提供者よみ	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 寄与者よみ	<dcterms:contributor> <foaf:Agent rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/entity/00300723"> <foaf:name>宮城県図書館</foaf:name> <dcndl:transcription>ミヤギケン トシヨカン </dcndl:transcription> </foaf:Agent> </dcterms:contributor> 【表現例2】 提供者のURIが提供されていない場合 <dcterms:contributor> <foaf:Agent> <foaf:name>311まるとアーカイブ事務局</foaf:name> <dcndl:transcription>311 マルゴト アーカイブ ジムキョク</dcndl:transcription> </foaf:Agent> </dcterms:contributor>
R-25					ams:ContributorClass1			提供者の区別(大項目)	1	1	文字列	rdfs:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトにて使用する。	<ams:ContributorClass1>行政・自治体・独法 </ams:ContributorClass1>
R-26					ams:ContributorClass2			提供者の区別(中項目)	0	1	文字列	rdfs:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトにて使用する。	<ams:ContributorClass2>行政・自治体・独法 </ams:ContributorClass2>
R-27					ams:ContributorClass3			提供者の区別(小項目)	0	1	文字列	rdfs:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトにて使用する。	<ams:ContributorClass3>行政・自治体・独法 </ams:ContributorClass3>
R-28	1-14			dcterms:publisher					0	-	構造化		NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータの公開者に関する記述	※メタデータの出版者を構造化又はURIにより記述する。 ※メタデータの作成者 (URI) は、Web NDL Authoritiesの名称 典拠URIや他のURIを使用することもできる。 例: <dcterms:publisher> <foaf:Agent rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/entity/00288347"> <foaf:name>国立国会図書館</foaf:name> <dcndl:transcription>コクリツ コッカイトシヨカン </dcndl:transcription> </foaf:Agent> </dcterms:publisher>
R-29	1-15				foaf:Agent								構造化 about属性の典拠IDは可能であれば値を記述する。	
	1-16						rdf:about		0	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータの公開者 (URI)	
R-30	1-17					foaf:name		出版者	1	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータの公開者名	<dcterms:publisher> <foaf:Agent rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/entity/00288347"> <foaf:name>国立国会図書館</foaf:name> <dcndl:transcription>コクリツ コッカイトシヨカン </dcndl:transcription> </foaf:Agent> </dcterms:publisher>
R-31	1-18					dcndl:transcription		出版者よみ	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 メタデータの公開者名よみ	<dcterms:publisher> <foaf:Agent rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/entity/00288347"> <foaf:name>国立国会図書館</foaf:name> <dcndl:transcription>コクリツ コッカイトシヨカン </dcndl:transcription> </foaf:Agent> </dcterms:publisher>
R-32	2-70			dcterms:subject					0	-	構造化		NDLアーカイブ側の対応項目 主題に関する記述	※情報資源の主題(件名)を構造化又はURIにより記述する。 ※主題が複数存在する場合は、dcterms:subjectの単位で繰り返す。 ※件名以外の主題に関する文字列を格納することができる。 基本的には統制された文字列を格納する。
R-33	2-71				rdf:Description								構造化 about属性の典拠IDは可能であれば値を入れる。典拠ID以外のURIも可とする。	【表現例1】 主題情報がURIが提供されている場合 <dcterms:subject> <rdf:Description rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/ndish/00574218"> <rdf:value>野球</rdf:value> </rdf:Description> </dcterms:subject> 【表現例2】 該当の主題情報のURIが提供されていない場合 <dcterms:subject> <rdf:Description> <rdf:value>野球</rdf:value> </rdf:Description> </dcterms:subject>
	2-72						rdf:about		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 主題 (URI)	
R-34	2-73					rdf:value		分類	1	1	文字列	rdfs:Literal	各PJで定義する分類(独自の語彙)を文字列で記述する。	<dcterms:subject> <rdf:Description rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/ndish/00574218"> <rdf:value>野球</rdf:value> </rdf:Description> </dcterms:subject>
R-35	2-75			dcterms:subject				分類(NDC)	0	-	参照値	dcndl:NDC9	NDC(9版) <dcterms:subject rdf:resource="http://id.ndl.go.jp/class/ndc9/値"/> NDLアーカイブ側の対応項目 分類への参照	※情報資源の主題(分類)をURIにより記述する。 ・NDC(9版) <dcterms:subject rdf:resource="http://id.ndl.go.jp/class/ndc9/値"/>
	2-76						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 分類 (URI)	
R-36				ams:subject				キーワード	0	1	文字列	rdfs:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトでは関連するキーワードを列挙する。 サブジェクトへマッピング予定。NDL側では検索・表示の対象となることを前提とし、実証PJ側で出力の制御を行う。	<ams:subject>避難の経緯、町長から行政報告をします、被災者の捜索活動、避難所の状況、所在確認状況と避難者への情報提供、災害給付金などの状況、応急仮設住宅、警戒区域への一時立入</ams:subject>
R-37				sdn:socialKeyWord				ソーシャルタグ	0	1	文字列	rdfs:Literal	宮城プロジェクトで使用する。 サブジェクトへマッピング予定。NDL側では検索・表示の対象となることを前提とし、実証PJ側で出力の制御を行う。	
R-38	2-79			dcterms:description				注記	0	-	文字列	rdfs:Literal		※情報資源に関する注記、本文情報等を文字列で格納する。
R-39	2-80			dcterms:abstract				説明、要約	0	1	文字列	rdfs:Literal		※情報資源に関する要約・抄録・アブストラクトは <dcterms:description>ではなく<dcterms:abstract>に格納する。

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-40	2-81			dcterms:tableOfContents					0	1	構造化	rdftype="Collection"	NDLアーカイブ側の対応項目 目次に関する記述 青森/岩手/福島プロジェクトでは使用しない。	※情報資源に目次がある場合、目次情報を文字列で格納する。 <dcterms:tableOfContents> <rdf:Description> <dcterms:title>目次情報1</dcterms:title> <dcterms:title>目次情報2</dcterms:title> <dcterms:title>目次情報3</dcterms:title> </rdf:Description>
R-41	2-82				rdf:Description									
R-42	2-83					dcterms:title		目次情報	1	-	文字列	rdftype:Literal	構造化	<dcterms:tableOfContents>
R-43	2-85			dcterms:created				データ作成日	0	1	文字列	dcterms:W3CDTF rdftype:Literal	W3CDTF形式 青森/岩手/福島プロジェクトでは、開始・終了がある 場合は終了の値のみを使用する。	<dcterms:created rdftype="http://purl.org/dc/terms/W3CDTF">値 </dcterms:created> ※W3CDTF形式を推奨し、W3CDTF形式での出力を基本とす るが、一部rdftype指定のないデータが存在する ※写真や動画のデータ作成日に使用する。
	2-86						rdftype:datatype		0	1	参照値		値制約	
R-44	2-95			dcterms:issued				出版年月日	0	-	文字列	dcterms:W3CDTF rdftype:Literal	W3CDTF形式でない場合はrdftype属性を省略 し、リテラルで記述	<dcterms:issued rdftype="http://purl.org/dc/terms/W3CDTF">2007- 11-01</dcterms:issued> ※W3CDTF形式を推奨し、W3CDTF形式での出力を基本とす るが、一部rdftype指定のないデータが存在する。
	2-96						rdftype:datatype		0	1	参照値		値制約	
R-45	2-101			dcterms:language				言語	0	-	文字列	dcterms:ISO639-2 dcterms:RFC1766 dcterms:RFC3066 rdftype:Literal	<dcterms:language rdftype="http://purl.org/dc/terms/ISO639- 2">値</dcterms:language> BとTの2種類のコードがある場合は、Bを使用すること を推奨する。	<dcterms:language rdftype="http://purl.org/dc/terms/ISO639-2">値 </dcterms:language> ※基本的に、ISO639-2形式のbibliographicの形式で格納す る。 ※一部rdftype指定のないもの、RFC1766形式、 RFC3066形式が存在する。
	2-102						rdftype:datatype		0	1	参照値		値制約	
R-46	2-105			dcterms:format					0	-	構造化			<dcterms:format> </dcterms:format>
R-47	2-106				rdf:Description									<rdf:Description>
R-48	2-107					premis:formatName		記録形式	1	1	文字列	dcterms:IMT		<premis:formatName
	2-108						rdftype:datatype		0	1	参照値		値制約	rdftype="http://purl.org/dc/terms/IMT">値 </premis:formatName>
R-49	2-109					premis:formatVersion		記録形式	0	1	文字列	rdftype:Literal		<premis:formatVersion>値</premis:formatVersion> </rdf:Description> </dcterms:format> ※各ファイルから機械的に抽出したフォーマット情報のうち、 バージョンに相当する部分を切り出すことが可能な場合はここ に収める ※フォーマットの名称はIANA MIME Media Types形式(IMT形 式)で格納する。
R-50	2-110			dcterms:extent				数量	0	-	文字列	rdftype:Literal		※図書のページ数や大きさ、デジタル資料のファイル容量 (例: ●KB等)を格納する。 例: <dcterms:extent>248p; 22cm</dcterms:extent>
R-52	2-111			dcndl:materialType				資料種別	0	-	参照値		NDLタイプの第1階層(一部は第2階層)までとし、複数 繰り返すとする。 NDLアーカイブ側の対応項目 資料種別(NDLタイプ語彙)	※「NDLタイプ語彙一覧(NDL東日本大震災アーカイブメタデ ータスキーマ 2013年3月版) (http://kn.ndl.go.jp/sites/default/files/ndkn_schema201 303.pdf)」に記載された付与指針にしたがって、資料種別の値 を格納する。(NDL 東日本大震災アーカイブサイトにおいて最 新掲載URLを確認してください。) ※複数付与する場合は、dcndl:materialTypeの単位を繰り返 す。
	2-112						rdftype:resource		0	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 資料種別(URL)	
	2-113						rdftype:label		0	1	文字列		NDLアーカイブ側の対応項目 資料種別の名称	<dcndl:materialType rdftype="写真" rdftype="http://ndl.go.jp/ndtype/Photograph"/>
R-53				ams:identifier				レコードID	0	1	文字列	rdftype:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトでは、資料固有の識別 情報を入力する。(省略可)	
							rdftype:datatype		0	1	参照値			

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-54	2-115			dcterms:identifier				メタデータID	0	-	文字列	rdfs:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトでは、メタデータID(システムで自動付与)から生成されるURIを出力する。	※各種レコード番号をリテラル(変数・関数ではない、文字列・数値等のデータ)で格納する。 <dcterms:identifier rdf:datatype="http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#Literal">http://fukushima.archive-disasters.jp/infolib/id/M2013011818013170719</dcterms:identifier> ・点字図書・録音図書全国総合目録番号 <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/BRNO">値</dcterms:identifier> ・RLIN番号 <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/RLINNO">値</dcterms:identifier> ・NS-MARC番号 <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/NSMARCNO">値</dcterms:identifier> ・OPL-MARC番号 <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/OPLMARCNO">値</dcterms:identifier> ・紀伊国屋マーク番号 <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/KNMARCNO">値</dcterms:identifier> ・NACIS-CATレコードID <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/NIIBid">値</dcterms:identifier> ・国立国会図書館書誌ID <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/NDLBid">値</dcterms:identifier>
	2-116						rdf:datatype		0	1	参照値			
R-55	2-117			dcterms:identifier				ISBN	0	-	文字列	dcnd1:ISBN	ISBN <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/ISBN">ISBNの値</dcterms:identifier>	※ISBNを格納する。 ・ISBN <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/ISBN">ISBNの値</dcterms:identifier>
	2-118						rdf:datatype		0	1	参照値			・機械的に付与した13桁のISBN: 当館で提供するデータでのみ使用 <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/ISBN13">値</dcterms:identifier> ・SICI <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/SICI">値</dcterms:identifier>
R-56	2-117			dcterms:identifier				ISSN	0	-	文字列	dcnd1:ISSN	ISSN <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/ISSN">値</dcterms:identifier>	※ISSNを格納する。 ・ISSN <dcterms:identifier rdf:datatype="http://ndl.go.jp/dondl/terms/ISSN">値</dcterms:identifier>
	2-118						rdf:datatype		0	1	参照値			
R-57	2-140			dcterms:isPartOf					0	-	参照値		青森/岩手/福島プロジェクトでは、階層構造上の直上のメタデータ(コレクション等)のURI	<dcterms:isPartOf rdf:resource="http://●●"/>
	2-141						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	
R-58	2-143			dcterms:hasPart					0	-	参照値		青森/岩手/福島プロジェクトでは、階層構造上の直下のメタデータ(コレクション等)のURI(複数繰り返し)	<dcterms:hasPart rdf:resource="http://●●"/>
	2-144						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 ～を一部分として持つ NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	
R-102	2-154			rdfs:seeAlso					0	-	参照値		連携元のメタデータ詳細画面URIをマッピングする。 コンテンツ閲覧画面とメタデータ詳細画面がセットになっている場合(例: Yahoo写真保存プロジェクト/Google未来へのキオク)、以下のようにマッピングする。 ⇒コンテンツを震災アーカイブの閲覧画面で見せる場合=rdfs:seeAlsoのみにマッピング(foaf:pageには震災アーカイブの閲覧画面URIをマッピング) ⇒コンテンツを連携元の画面で見せる場合=rdfs:seeAlso、foaf:page両方にマッピングする。 NDLサーチ由来のメタデータにdcterms:sourceが入っていた場合は、dcterms:hasFormatにマッピングする。 NDLアーカイブ側の対応項目 データ提供元のメタデータへのリンク	<rdfs:seeAlso rdf:resource="http://●●"/> ※メタデータを他のアーカイブから収集して提供する場合に、提供元のメタデータへの直リンクURLを格納する。 ※提供元で、該当メタデータに対する直リンクURLを持たない場合は、提供元アーカイブのトップページ等のURLを格納する。 ※他のアーカイブからメタデータを収集せず、自機関で作成したメタデータの場合は、値を格納する必要無し。 ※提供元のアーカイブのサービスの内容によって、以下のように対応する。 <1. メタデータ詳細表示画面URIとコンテンツ閲覧画面URIの両者が存在するケース> →「メタデータ詳細表示画面URI」を格納する。 <2. メタデータ詳細表示画面URIのみ存在するケース>(例: 紙資料) →「メタデータ詳細表示画面URI」を格納する。 <3. メタデータ詳細表示画面とコンテンツ閲覧画面が一つの画面URIとして存在するケース>(例: Yahoo写真保存プロジェクト) →「画面URI」を格納する。
	2-155						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-103	2-156			foaf:page					0	-	参照値		コンテンツ閲覧画面のURIをマッピングする。 コンテンツ閲覧画面とメタデータ詳細画面がセットに なっている場合(例: Yahoo写真保存プロジェクト/ Google未来へのキオク/デジデポ2.0)、以下のよ うにマッピングする。 ⇒コンテンツを震災アーカイブの閲覧画面で見せる 場合=rdfs:seeAlsoのみにマッピング(foaf:pageには 震災アーカイブの閲覧画面URIをマッピング) ⇒コンテンツを連携元の画面で見せる場合= rdfs:seeAlso、foaf:page両方にマッピングする。 NDL震災アーカイブのコンテンツ閲覧画面 (http://kn.ndl.go.jp/view/震災ID)はfoaf:pageにマ ッピングする。 基本的には、「NDL東日本大震災アーカイブの閲覧画 面」「連携元の閲覧画面」のいずれかしか入れない想 定。コンテンツ閲覧画面が複数ある場合は、メインの 閲覧画面をfoaf:pageにマッピングし、サブの閲覧画面 をdcterms:relationにdcterms:description付きでマ ッピングする等の対応をする想定だが、ケースバイケ ース。そのためfoaf:pageは複数繰り返すようにしてお く。	※写真や動画のビューのページ等、コンテンツ閲覧画面の URLを格納する。具体的には以下のように格納する。 <1. メタデータ詳細表示画面URIとコンテンツ閲覧画面URIの 両者が存在するケース> →「コンテンツ閲覧画面URI」を格納する。 <2. メタデータ詳細表示画面URIのみ存在するケース>(例: 紙資料) →格納しない。 <3. メタデータ詳細表示画面とコンテンツ閲覧画面が一つの 画面URIとして存在するケース>(例: Yahoo写真保存プロジェ クト) →「画面URI」を格納する。 例: NDL東日本大震災アーカイブの場合 <foaf:page rdfs:resource="http://kn.ndl.go.jp/view/●●"/> ※●●には、該当する震災IDが入る。 例: NDL東日本大震災アーカイブから提供元のアーカイブの閲 覧画面へ遷移する場合 <foaf:page rdfs:resource="提供元リポジトリのコンテンツ閲覧 画面URI"/>
	2-157						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	
R-104	2-160			dc:accessURL					0	-	参照値		メタデータにコンテンツのファイルURIが含まれている 場合に、ファイルURIをマッピングする。 デジデポ2.0とのマッピングにおいては、ファイルのダ ウンロードURIがowl:sameAsとしてマッピングされてく るが、震災アーカイブではdc:accessURLにマッピン グする。 現在W3CでWorking Draftの段階ではあるが、適した 語彙が他にないため、使用することとする。 定義を見ると、HTML上では値制約がrdfs:Literalと なっているが、RDFSスキーマ上ではrdfs:Resourceと なっているため、rdfs:Resourceを採用した。	※メタデータに、情報資源のオリジナルファイルURLが含まれ ている場合に、ファイルURIを格納する。 例: Yahoo写真保存プロジェクトのオリジナル画像URLの場合 <dc:accessURL rdfs:resource="http://archive.shinsai.c.yimg.jp/v1/resource /emphoto-0727/030/72727.jpg"/>
	2-161						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	
R-59	2-162			dc:source					1	1	参照値		収集元リポジトリへのリンク(実証PJで一律に付与す る)	※メタデータを他のアーカイブから収集して提供する場合に、 提供元アーカイブのトップページのURLを格納する。 ※rdfs:label属性には、提供元アーカイブの名称を文字列で格 納する。 例: <dc:accessURL rdfs:resource="http://fukushima.archive- disasters.jp/infolib/cont/01/G0000004FUKUSHIMA/000/0 42/000042135.pdf"/>
	2-163						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	
	2-164						rdfs:label		0	1	文字列		NDLアーカイブ側の対応項目 提供元の名称	
R-60	2-167			dcterms:spatial				0	-	構造化		構造化(複数繰り返し) NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする場所に関する記述	※情報資源が表す/対象とする場所情報を格納する。 ※撮影場所と撮影対象の場所が異なる場合に、撮影対象の 場所に関する情報を格納する。	
R-61	2-168						rdf:Description		1	1	参照値		構造化	例: <rdf:Description rdfs:about="http://sws.geonames.org/2111149/"> ※Geonames情報で該当するものがあればGeonamesの URIを記述する。 ※Geonames情報で該当するものが無い場合は、Web NDIA のURI(地名典拠のentityのURI)を記述する。 ※Geonames、Web NDIAどちらでも該当するものが無い場合 は、rdfs:about属性は不要とする。
	2-169						rdf:about		0	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする場所 (URI)	
R-62	2-171						v:region	場所	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする場所(都道府県)	※●●県等、「都道府県」まで記述する。 例: <v:region>福島県</v:region>
R-63	2-172						v:locality	場所	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする場所(市町村)	※●●市、●●町等、「市町村」まで記述する。 ※都名は町村名の前に記述する。 例1: <v:locality>南相馬市</v:locality> 例2: <v:locality>本吉郡南三陸町</v:locality>
R-64	2-174						v:label	場所	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする場所(都道府県・市町村等連 結した表現)	都道府県名や市町村名等を連結した値を格納する。都道府県名と 市町村名等との間は半角スペースを空けることを推奨するが、空け ていない値も許容する。 例: <v:label>福島県 南相馬市 原町区相町二丁目</v:label>
R-65	2-176						geo:lat	座標情報	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする場所(緯度) <geo:lat>35.694135833333</geo:lat> ※世界測地系(WGS84)の百分率表記を使用する。 ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系 (WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界 測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gp s-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規 化する。 ※矩形範囲の場合は北西端を基準とする。	<geo:lat>35.694135833333</geo:lat> ※世界測地系(WGS84)の百分率表記を使用する。 ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系 (WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界 測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。

R-66	2-177				geo:long		座標情報	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする場所(経度) <geo:long>139.757873888889</geo:long> ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※矩形範囲の場合は北西端を基準とする。	<geo:long>139.757873888889</geo:long> ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。
R-67					jmp20:westBoundLongitude		西端経度	0	1	文字列	rdfs:Literal	西端経度 実証PJで矩形を表す場合に使用する。	
R-68					jmp20:eastBoundLongitude		東端経度	0	1	文字列	rdfs:Literal	東端経度 実証PJで矩形を表す場合に使用する。	
R-69					jmp20:southBoundLatitude		南端緯度	0	1	文字列	rdfs:Literal	南端緯度 実証PJで矩形を表す場合に使用する。	
R-70					jmp20:northBoundLatitude		北端緯度	0	1	文字列	rdfs:Literal	北端緯度 実証PJで矩形を表す場合に使用する。	
R-71					sdn:direction		方角	0	1	文字列	rdfs:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトでは使用しない。	
R-72					sdn:directionRef		方角参照	0	1	文字列	rdfs:Literal	青森/岩手/福島プロジェクトでは使用しない。	
R-73	2-183				ma:locationLatitude		座標情報(写真撮影場所)	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 撮影場所(緯度) デジタルカメラのEXIF情報から取得した値を設定する。 <ma:locationLatitude>35.6941358333333</ma:locationLatitude> ※世界測地系(WGS84)の百分率表記を使用する。 ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。	<ma:locationLatitude>35.6941358333333</ma:locationLatitude> ※世界測地系(WGS84)の百分率表記を使用する。 ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。
R-74	2-184				ma:locationLongitude		座標情報(写真撮影場所)	0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 撮影場所(経度) デジタルカメラのEXIF情報から取得した値を設定する。 <ma:locationLongitude>139.757873888889</ma:locationLongitude> ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。	<ma:locationLongitude>139.757873888889</ma:locationLongitude> ※日本測地系または度分秒形式のデータについては、世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。 ※Exifで使用する特有の表記形(参考: http://www.kanzaki.com/docs/sw/geoinfo.html#gps-exif)も世界測地系(WGS84)の百分率表記に正規化する。
R-75	2-185				ma:locationAltitude			0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 撮影場所(高度) デジタルカメラのEXIF情報から取得した値を設定する。	<ma:locationAltitude>0</ma:locationAltitude> ※基準地点からのメートル数で表現する。データが来るか不明だが、念のため入れものとして用意しておく。
R-76	2-186				v:region			0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 撮影場所の都道府県	※●●県等、「都道府県」まで記述する。 例: <v:region>福島県</v:region>
R-77	2-187				v:locality			0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 撮影場所の市町村	※●●市、●●町等、「市町村」まで記述する。 ※郡名は町村名の前に記述する。 例1: <v:locality>南相馬市</v:locality> 例2: <v:locality>本吉郡南三陸町</v:locality>
R-78	2-189				v:label			0	1	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 撮影場所の住所(都道府県・市町村等連結した表現)	都道府県名や市町村名等を連結した値を格納する。都道府県名と市町村名等との間は半角スペースを空けることを推奨するが、空けていない値も許容する。 例: <v:label>福島県 南相馬市 原町区旭町二丁目</v:label>
R-79	2-201				dcterms:temporal			0	-	構造化		NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする時間に関する記述	写真の撮影日等ではなく、対象となる情報が主題としている時間(例:江戸時代の街並みを表した地図が主題としている時間は江戸時代)に関する情報を格納する。
R-80	2-202				rdf:Description							構造化 下記3つのパターンのうちいずれか1つとなる。 (rdf:valueは複数繰り返さない)	
R-81	2-203				rdf:value		コンテンツ作成日(自)	1	1	文字列	dcterms:W3CDTF	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする時間 W3CDTF形式	属性値なしの文字列(この場合rdf.datatypeはなし)、またはW3CDTF形式・Period形式の文字列を収める。 *W3CDTF形式 <rdf:value </rdf.value>
	2-204				rdf:datatype			0	1	参照値		値制約	
R-82	2-203				rdf:value		コンテンツ作成日(自) コンテンツ作成日(至)	1	1	文字列	dcterms:Period	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする時間 Period形式	rdf.datatype="http://purl.org/dc/terms/W3CDTF"値 </rdf.value> *Period形式 <rdf:value rdf:datatype="http://purl.org/dc/terms/Period">値</rdf.value>
	2-204				rdf:datatype			0	1	参照値		値制約	

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-83	2-203					rdf:value		作成時期	1	1	文字列	rdfs:Literal	データ型なしのリテラル	属性値なしの文字列(この場合rdf.datatypeはなし)、またはW3CDTF形式・Period形式の文字列を収める。 ・W3CDTF形式 <rdf:value rdf:datatype="http://url.org/do/terms/W3CDTF">値</rdf:value> ・Period形式 <rdf:value rdf:datatype="http://url.org/do/terms/Period">値</rdf:value>
	2-204						rdf:datatype		0	1	文字列		値制約	
R-84	2-234			dcterms:audience					0	1	文字列	rdfs:Literal	実証PJからは、公開データのみが提供されるため一律「一般」という値をセットする。	※対象利用者が誰かを文字列で格納する。 例: <dcterms:audience>一般</dcterms:audience>
R-85	2-235			dcterms:available				コンテンツ公開期間	0	-	文字列	dcterms:W3CDTF dcterms:Period rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源に関するアクセス制限 W3CDTF形式またはPeriod形式	※震災関連デジタルアーカイブの利用制約情報を格納する。
R-87				ams:accessControlObject				コンテンツへのアクセス 対象制限	0	1	参照値		値制約	
R-88				ams:accessControlPeriod				コンテンツへのアクセス 期間制限	0	1	文字列	rdfs:Literal	「あり」または「なし」。	<ams:accessControlObject>なし </ams:accessControlObject> <ams:accessControlPeriod> なし</ams:accessControlPeriod> <ams:accessControlOnerous>無償 </ams:accessControlOnerous>
R-89				ams:accessControlOnerous				コンテンツへの無償アクセス	0	1	文字列	rdfs:Literal	「有償」または「無償」。	
R-109	2-236			dcterms:license					0	-	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 ライセンス情報 クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのURIや、各アーカイブにおける利用条件のポリシーが記載されたページURI等を格納する。	※当該情報資源を利用するための利用条件、ライセンスに関する情報をURIの形式で格納する。 ※クリエイティブコモンズライセンスの場合は、該当するクリエイティブコモンズライセンスのURIを格納する。 ※その機関独自の利用条件やライセンスの場合は、その情報が記載されたウェブページのURLを格納する。
	2-237						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	例1: クリエイティブコモンズライセンスの場合 <dcterms:license rdf:resource="http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/us/">
	2-238						rdfs:label		0	1	文字列		NDLアーカイブ側の対応項目 ライセンス情報の名称	
R-91	2-239			cc:attributionName				著作権者名	0	-	文字列	rdfs:Literal	ライセンス保有者名	例: <ccattributionName>国立国会図書館</ccattributionName>
R-92	2-242			dcterms:rights				権利関係	0	-	構造化		権利・利用条件が複数ある場合は、dcterms:rights のかたまりを繰り返す。	
R-106	2-243				rdf:Description				1	1	参照値			
R-107	2-244					rdf:value	rdf:about		1	1	参照値		利用条件を示す、定型的な文字列を記述する。 dcterms:accessRightsは、当館内の利用制御に使用 しているため、利用条件に関する定型情報は dcterms:rightsに格納することとする。 実証PJ側で標準語彙を定める前は、マッピングしな くて良い。	・権利・利用条件に関する情報を文字列で自由に格納する。 例: <dcterms:description>30年後公開で、当面は研究利用のみ可 </dcterms:description>
R-108	2-244				dcterms:description				0	1	文字列		NDLにおいては、デジデポ2.0のrightsHolderの情報を 格納する。	
R-93	2-249			foaf:thumbnail				サムネイル画像URL(一 覧用)	0	-	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源のサムネイル画像	※当該情報資源のサムネイル画像があれば、URLの情報を格 納する。 例: <foaf:thumbnail rdf:resource="http://fukushima.archive- disasters.jp/infolib/cont/01/G0000004FUKUSHIMA/000/0 42/0000421351s.jpg"/>
	2-250						rdf:resource		1	1	参照値		一覧用のサムネイルURLを格納する NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	
R-94				sdn:thumbnail				サムネイル画像URL(Web 用)	0	-	参照値		WEB用のサムネイルURLを記述する 青森/岩手/福島プロジェクトでは使用しない。	
							rdf:resource		1	1	参照値			
R-95	2-245			dcterms:coverage					0	-	参照値		構造化 NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源が対象とする災害に関する記述	<dcterms:coverage> <rdf:Description rdf:about="http://id.ndl.go.jp/auth/ndsh/01226692"> <rdf:value>東日本大震災 (2011)</rdf:value>
R-96	2-246				rdf:Description				0	1	構造化		構造化 about属性にはWeb NDLAのURI参照を記述する。	
	2-247					rdf:about			0	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源に関する災害 (URI)	
R-97	2-248					rdf:value		リソースに関連する災害	0	-	文字列	rdfs:Literal	NDLアーカイブ側の対応項目 情報資源に関する災害名	
R-98				sdn:objectStatus					0	-	構造化		構造化 実物の状態	
R-99					rdf:Description				1	1	構造化			
R-100						sdn:quality		実物の状態	0	-	文字列	rdfs:Literal	統制語彙によった状態を格納する。	
R-101						rdf:description		実物の状態説明	0	-	文字列	rdfs:Literal	任意の説明を記述する。	
R-110	2-123			dcterms:source					0	-	参照値		実証PJ側で必要に応じて追加を検討する。 NDLアーカイブ側の対応項目 原資料	※国立国会図書館側では当該情報資源の根拠となった情報 資源に対し、URI参照によって値を格納するための項目。 例: Webページをアーカイブした情報資源から、元のWebページ へリンクを貼る場合 <dcterms:source rdf:resource="値"/>
	2-124						rdf:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	

連携MS 項番	NDL震災 メタ項番	第1階層	第2階層	第3階層	第4階層	第5階層	属性	実証PJでの項目名	最小出現 回数	最大出現 回数	値タイプ	値制約	説明	詳細および表現例等
R-111	2-125			dcterms:relation					0	-	参照値		連携元のメタデータに、URI参照の情報があつた場合は、可能であればdcterms:relation下位の項目にマッピングする。 ※関係性を限定できる場合は、なるべくdcterms:relation下位の項目にマッピングする。 ※URI参照として表したい項目を、適切な語彙にマッピングできない場合は、dcterms:relationに格納する。 ※dcterms:relationの属性dcterms:descriptionには、relationの関係を表す導入語句を付加する。 例: Yahoo写真保存プロジェクトのスクリーン画像URIへのリンク<dcterms:hasVersion rdf:resource="ScreenUrlの値" dcterms:description="スクリーン画像"/> NDLアーカイブ側の対応項目 関連資料	※当該情報資源と何らかの関係性を持つ情報資源へのリンク情報をURIによって格納する。 ※関係性を限定できる場合は、なるべくdcterms:relation下位の項目にマッピングする。 ※URI参照として表したい項目を、適切な語彙にマッピングできない場合は、dcterms:relationに格納する。 ※dcterms:relationの属性dcterms:descriptionには、relationの関係を補完する文字列を付加する。 例: 震災関連デジタルアーカイブのスクリーン画像URIへのリンク<dcterms:relation rdf:resource="ScreenUrlの値" dcterms:description="スクリーン画像"/>
	2-126						rdfs:resource		1	1	参照値		NDLアーカイブ側の対応項目 URIへの参照	
	2-127							dcterms:description	0	1	文字列		NDLアーカイブ側の対応項目 関連資料に関する補足情報	

出所: 『「東日本大震災アーカイブ」基盤構築事業デジタルアーカイブ構築・運用に関する実証調査』における震災関連デジタルアーカイブ連携用メタデータスキーマ定義および NDL 震災メタデータスキーマを元に MRI にて編集